

留学を経験して感じたこと

今回オーストラリアにあるシドニー工科大学（UTS）付属語学センターINSEARCHに1か月間留学した感想は、短い一言でした。定型句のようですが、オーストラリアに行く前や着いた直後は不安しかなく、英語を話す機会があっても一緒に行動している日本人に頼りきりでした。しかし、現地で過ごし、INSEARCHに通っているうちにその気持ちも変わっていき、最後には帰りたくない気持ちでいっぱいでした。この報告書では、INSEARCHでの研修の印象、その他の現地での生活、反省点、それらを踏まえて今後留学に行く人に向けて伝えたいことの4点について書きたいと思います。

まず、研修についてですが、INSEARCHはUTSに入学したい人たちがそのために英語での論文の書き方などを学ぶ場所なのでとても受けやすい授業でした。イメージとしてはネイティブスピーカーが日本の高校での授業を行っているという印象でした。関係代名詞などの文法を基礎から学んだり、Writingを文の構造から学ぶといった授業で、英語の基本を復習しながら深い部分まで知ることができ、説明もやりとりもすべて英語なので耳も口も鍛えられました。プログラムの最後にはWritingやPresentationの課題があるのですが、アウトラインや下書きを書くたびに一人一人添削を受け、面談のような形で行われるので気になる点を質問しやすく、スムーズに仕上げていくことができました。また、私のクラスは日本人1人、コロンビア人1人、中国人多数だったので英語でコミュニケーションをとるしかなく、ペアワークやグループワークの時間も気を抜かせませんでした。留学経験のある人から「周りが日本人ばかりだったから自分が意識的に英語を話す環境に身を置かないと上達しない」という話を聞いたことがあったので、この点はとても嬉しかったです。そしてINSEARCHでは授業以外にも現地の高校訪問やUTS案内などのプログラムも体験できました。私たちが訪問させていただいた高校は現地でもとても優秀な高校で、特に日本語教育が進んでいる学校でした。自分は英語教師を目指して英語を学んでいる立場であるので、他国の第二、第三言語の教育現場を見学できたことはとても貴重な経験でした。

次に、授業以外での生活について書きたいと思います。INSEARCHの授業は午前クラス、午後クラスに分かれていて、私は午前クラスで13時に授業が終わっていたので、午後はその日に出された課題やシドニー散策などに時間を利用できました。INSEARCHにはボランティアで学生たちをサポートしてくれる、同い年ほどのヘルパーたちがいるのですが、ヘルパーたちがシドニーを案内してくれることが多く、地理に詳しくない私たちでもとても楽しむことができました。日本人全員を連れてバーやビーチに連れて行ってってくれることもあれば、希望者の何人かだけでカラオケやビリヤードに連れて行ってくれたりもしたので暇なく毎日楽しく過ごせました。ヘルパーたちについていったことである程度地理や移動方法も理解できて、日本人だけでいろんな場所へ行ったりもできたので本当にありがたかったです。また、このプログラムでは全員ホームステイをしたのですが自分のホストファミリーはフィリピン人だったので、その点でも英語で会話するしかなく、日常会話も勉強になりました。基本的にオーストラリアは多国籍なのでいろいろな国の人々と英語で会話しなければならないのですが、その国によって英語の発音やイントネーションが異なり、聞き取ることが容易ではなく苦労しました。しかし、そのおかげで耳が鍛えられたことも事実だと思います。オーストラリアに到着した日と比べると帰る直前の方が確実にホストファミリーや先生、クラスメイトの英語が聞き取れるようになっていて、会話も続くようになっていたので耳も口も成長できました。しかし、以前と比べると程度の話であり、それでもまだまだ期間が足りなかったと感じました。

次に、自分の留学での反省点を簡単に書きたいと思います。1 点目ですが、2 週目の土日にツアーに参加したのですが、不安もあったので日本人ガイドのツアーに参加しました。しかし、4 週目の土日に現地人のガイドのツアーに参加した時、絶対にこっちに参加するべきだったと思いました。英語での説明なので耳も鍛えることができるし、参加者もフランス人、中国人、ドイツ人などで、日本人は自分たちだけでした。他文化に触れ、英語に多く接することができたのでぜひオプションツアーに参加する際は現地人のガイドのものに参加してみてください。2 点目は体調管理についてです。私は 4 週目に 2 日間ほど体調を崩して寝込んでいました。こうなると授業にも参加できず、ヘルパーや日本人とシドニーを散策することもできずにとっても苦しい思いをしました。日本とは気候も全く異なるので服装や体調管理には気を付けてください。3 点目はお金に関してです。オーストラリアは物価が高いです。コンビニだと水は 500ml で約 250 円、晩御飯で外食すると 1 人 2000 円ほどかかります。ちょっといいところに行くと 4000 円飛びました。また、ツアーのお金もクレジットで払っていたので最後の方は限度額におびえる毎日でした。そうならないためにも限度額設定も行く国によって考え、万が一の時のために日本円を現地の通貨で引き出せるキャッシュカードを作っておくべきだと思います。私はそのカードのおかげで助かっていました。

最初にも書いた通り、行く前は勿論楽しみですが少なからず不安もあると思います。それは恐らく行ってみなければ拭えませんが、しかし行ってみるとほぼ間違いなく楽しさの方が上回ります。私は半年や一年留学していたわけではないのでホームシックになることもなく、短い期間だったからこそ言えるのかもしれませんが、しかし、行けと言われていく人は 1 か月で十分かもしれませんが、英語を勉強したい、留学したいと思っている人はまず間違いなく 1 か月では物足りないです。私も本当は 1 年間留学したいと思いつつも勉強をさぼっていて、それでもこのプログラムを好機だと感じて親に頼み込んで行くことにしました。申し込んだ後、「この留学がゴールになったらどうしよう。もう一度行こうと思えなかったらどうしよう。」という不安を強く感じましたが、帰ってきてからはもう一度、次はもっと長くという気持ちがとても強くなりました。しかし、交換留学はスコアを取得しなければいけません。長期休暇に実施されるプログラムはそうではありません。問題となるのは人数と費用のみです。費用はとて大きな問題で、自分は親に怒られながらも頼み込みましたが、一緒に行った人の中には自分がバイトで貯めたお金で参加している人もいました。怒られる覚悟で親に頼むことも必死にお金を稼ぐことも楽しいことではありませんが、留学を体験したら行って良かったと思えると思います。ぜひ参加してみてください。

クラスの様子
(先生は写真嫌いで NG)





日本人学生と
ヘルパー in bar

ホストマザー Larcy

